

成田市公設地方卸売市場運営審議会会議録

1 開催日時

平成28年1月14日（木）午後3時～午後4時45分

2 開催場所

成田市飯仲42番地2

成田市公設地方卸売市場 管理事務所2階会議室

3 出席者

（委員）

岩澤貞男会長、篠原圭助委員、加瀬間俊勝委員、西山重男委員、
小泉嘉美委員、廣野安弘委員、小宮山四郎委員、飯高秋男委員、
伊藤竹夫委員、神谷隆一委員、日置久恵委員、磯野徳子委員、

（事務局）

小泉一成市長、諏訪峰雄部長、五十嵐昭夫場長、成毛寛実主幹、
小倉博文主査、郡司芳己主査

4 内容

（1）平成25年12月26日付けの答申以降の動向について

（2）成田市場の農林水産物輸出拠点化推進事業の検討状況について

（3）市場の再整備について

5 議事（要旨）

（1）平成25年12月26日付けの答申の概要及び答申後の動向について、
配付資料に沿って事務局より説明した。

（2）成田市場の輸出拠点化推進事業の検討状況及び昨年11月に実施した輸
出実証事業の概要について、配付資料に沿って事務局より説明した。

（3）「卸売市場再整備に係る施設規模検討報告書」の概要と、前回の諮問内容
との、施設再整備に関する部分の相違点について事務局より説明した。「特区提
案に基づき検討した結果、将来における取り組みとして位置付けていた輸出に
ついて、市としては当初から必要な施設を整備し取り組みたいと考えている。
輸出に取り組むことによって地域拠点市場にも位置付けられる見込みであり、
それに伴い国の補助金も受けられるようになる。なお、当初から輸出関連施設
を整備することに伴い面積が不足する状況となるため、現地再整備という答申
内容について再検討が必要となる。」

(4) (1) ~ (3) の説明を踏まえ、小泉市長が提言を述べた。「現在の市場を取り巻く環境を踏まえると、現在と同様の機能のみの再整備では、将来に向けた活性化、発展は厳しいと考えている。現在取り組んでいる輸出拠点化については、ロンドンでの実証事業などの成果から大きな手応えを感じており、成田市場は新たな姿として、輸出拠点機能を持つ市場として整備してまいりたい。については、圏央道の開通により更に充実した交通ネットワークを利用し、成田国際空港の持つポテンシャルを活かし、共に発展するためには、空港近接などに有効な場所があれば、移転し取り組むべきと考えている。」

(5) (1) ~ (3) までの事務局からの説明及び市長からの提言を踏まえ、各委員より意見や質問を受けた。

(6) 次回の審議会において、前回答申を受けた諮問内容からの変更点を整理し、再諮問することとなった。

◆主な意見等

(意見)

輸出拠点として取り組んで行くのであれば、十分に議論したうえで必要な広さが確保できる場所への移転も考えていくべきでは。

(事務局)

審議会の答申としては現地再整備という内容であったため、今のところ新しい候補地等の検討までは行っていない。今後新地移転という方向になった場合は、計画に見合った土地の検討を進めていきたい。

(意見)

整備面積の規模を算定するにあたっての根拠は。

(事務局)

市場取扱高の推計から算定しているが、平成25年報告書との相違は2020年の成田市場経由の輸出金額の目標値を加えて算定している点となる。

(意見)

新たな輸出への取り組みも重要であるが、今まで市場内の卸や仲卸業者が取り組んできたものを今後どう展開していくかということの方向性も併せて考えるべきでは。

(事務局)

輸出が増えれば、市場全体の取扱高の増にもつながり、取引の活性化に十分貢献できるものと考えている。イメージとしては、今ある市場機能の再整備にプラスして輸出拠点機能を整備するという事を考えている。

(意見)

仮に移転となった場合、青果・水産物部以外に、関連棟部門とも十分な協議

調整が必要では。

(事務局)

公設として市が整備すべき施設は市場機能に関するものが基本となる。関連棟部門を整備する必要が生じた場合は、提案型により企業等を誘致する形を想定している。

(意見)

仮に関連棟部門が移転は無理となった場合はどうなるのか。

(事務局)

新しい施設の計画にあたっては、食品関連施設や飲食施設などは必要な機能として位置付けられると考えている。

(意見)

関連棟にも、輸出に興味を持っている会社が見受けられるので、今後実証事業等を行うのであれば、関連棟にも声をかけて欲しい。輸出事業を考えていく中で、青果・水産部門だけではなく、食品業界全般として捉えてほしい。一方で、TPPの問題もあり、今後輸出に取り組もうという動きが全国的に広がることが想定されることから、全体の物を受け入れられる施設規模にして欲しいし、輸出拠点化の検討にはスピード感が必要と考える。

(意見)

輸出の話が急展開している状況のため、青果卸売組合の中では考え方が整理できていない。将来的に輸出の必要性は感じていると思うが、移転という話が出た場合、足並みが揃うかどうかは不透明である。

(意見)

卸売市場として、ただモノを集めて売るだけでは今後生き残れない。輸出も含め、何か違う戦略を打たないと将来性は見えてこないと実感している。

(意見)

水産物仲卸組合としては、今後も市の考え方に耳を傾けながら、組合としての意向を話し合っていきたい。

(意見)

水産物卸業者としては、最近輸出への取り組みにも力を入れ始めており、今後も本社のバックアップを頂きながら進めていきたいと考えている。

(意見)

当時の市場再生検討委員会の際は、輸出拠点化構想の話は将来的なものとして位置付けていたので、現場再整備ということで進んでいた。しかし、現在の市場は周辺が住宅地へと変化してきている状況もあり、その辺も考慮したうえで今後議論していく必要がある。

(意見)

今後海外輸出は伸びしろがあると思うので、市場の輸出拠点化は有効な手段であると思う。成田市は農業が盛んであり、地元産農産物の販路拡大などに貢献できる施策につながっていければと思う。

(意見)

市場は移転するという話が独り歩きしてしまっている状況が見受けられる。

(意見)

この事業を進めていくためには、色々な立場の人たちの考えを整理していく必要があることを改めて実感した。

(意見)

市として、前回の諮問内容に対し再諮問する考えはあるのか。

(市長)

状況が変わっていることは今回説明したとおりであり、次回の審議会において再諮問をお願いすることになると思う。

(意見)

仲卸業者の中には、経営の現状維持が精一杯というところも多い。輸出拠点の展開と現状の市場機能の方向性をどう整理していくか。

(意見)

仲卸が生きていく方法論が変わってきている。日本の農業政策とどう関連づけていくか。

(事務局)

輸出に関する勉強は今後も引き続き進めていく。大前提は公設市場の再整備である。

(意見)

じっくり議論することも必要だが、ペースが遅いと他の市場に追い越されてしまう。スピード感を持って進めるべき。

(事務局)

次回の会議の際、事務局で課題を整理し、再諮問させていただきたいと考えている。

6 傍聴

3名（うち記者2名）

7 次回開催日時（予定）

平成28年2月10日（水）15時～